

NACOME

全国大学音楽教育学会 関西地区学会
平成 30 年度 前期研究会

平成 30 年 7 月 8 日 (日) 12 : 30 ~ 16 : 40

大阪市立総合生涯学習センター (第 1 研修室)

大阪市北区梅田 1-2-2-500 大阪駅前第 2 ビル 5 階

主催 全国大学音楽教育学会 関西地区学会

全国大学音楽教育学会 関西地区学会
平成 30 年度 前期研究会

プログラム

I. 総会・学会諸連絡 (12:30~13:30)

1. 学会諸連絡、理事会報告 (山岸 徹、生地加代)

2. 平成 29 年度活動報告 (山岸 徹)、平成 29 年度決算報告 (奥田昌代、山本敬子)

3. 平成 30 年度活動計画案 (山岸 徹)、平成 30 年度予算 (案) (奥田昌代、山本敬子)

4. 提案)・次期役員の任期について：第 36 回全国大会 (2020 年 8 月、関西地区担当) 終了まで
・「関西地区学会誌」(仮称) 発刊について

5. その他

6. 役員の変更

II. 研究口頭発表 (13:40~14:05)

1. 鷺見 三千代 (園田学園女子大学短期大学部)
子育て支援室における音楽活動から見てきたもの

III. 研究演奏発表 (14:10~14:50)

1. ピアノ独奏 久野 以早夫 (東京福祉大学名古屋キャンパス)
シューベルト作曲：「即興曲」作品90 より 第3番

2. ピアノ独奏 的場 里美 (夙川学院短期大学)
ラフマニノフ作曲：「プレリュード」ト短調 作品23 より 第5番

* * * * *

3. ピアノ連弾 フリモ：山本 敬子 (武庫川女子大学)
セコンド：生地 加代 (武庫川女子大学)
ゲッツ作曲：「四手のためのピアノ・ソナタ」作品17 より 第1楽章

4. ピアノ連弾 フリモ：白倉 朋子 (大阪芸術大学)
セコンド：深田 直子 (大阪総合保育大学)
ドビュッシー作曲：『小組曲』より
1. 「小舟にて」、2. 「行列」

* * * * *

IV. 講演 (15:00~16:30)

講師：相澤 保正 (全国大学音楽教育学会顧問、弘前医療福祉大学短期大学部学長)

演題：創造することと教えること

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

講演要旨

講師：相澤 保正（全国大学音楽教育学会顧問、弘前医療福祉大学短期大学部学長）

演題：創造することと教えること

◆各種プロジェクトへの参加と創造

〈道のないところに道をつける〉—そのことが—

① ヒット商品を開発する。

若い時に、音楽関係の会社務めで、全国から集められた7人のプロジェクトチームで、約6か月間ブレインストーミングを重ね、その結果、新しく開発した商品がヒットした。

② 学生の大学入学の希望（小学校の教師になる）を叶える。

小学校の教師になりたい、という希望を抱いて入学してきた学生達（国立大学の教育学部に入学できなかった学生達ばかりだった）だが、約50人の学生が県の教員採用試験を受験して、合格者ゼロになった。その次の年、学生を県の教員採用試験に合格させるためのプロジェクトチームが編成され、キャップを務めた（当時、助教授）。2年後に、県の教員採用試験に受験者の50%が合格した。3年後は75%が合格し、国立大学教育学部の合格率を上回った。そして地元紙の紙面のトップを飾る記事になった。

③ 学生が、自ら音楽的な表現を創造する喜びにつながる演習内容設定の工夫。

学生達が、いくつかのチームを組み、教師から習っていない曲の譜読みから始めて、5～6曲を仕上げる。これには、ひとつのストーリー性を持たせメドレーで演奏し、仲間たちの前で発表するので、選曲段階でチームのディスカッションが当然行われる。

学生達は、曲が仕上がったと判断した時、教師を呼びに来て、自分たちの演奏を披露し、助言を求める（土曜日の午後が多かった）。教師（私）は、出来るだけ学生達の音楽的な創造力を生かすよう心がけ、音符の読み間違い以外は、ほとんど手を加えなかった。その結果、学生達は自信を持つので、自分たちの仕上げた曲を生き生きと演奏する。

④ 地域社会のためになる。

高齢社会が到来して、高齢者が福祉施設等を終の棲家とすることが多くなってきた。

この福祉施設に入所している高齢者のQOL向上を目的とした「音楽ボランティア協会・赤とんぼ」を、平成14年8月に創立し今日まで、その活動を継続している（会員50名）。入所者参加型のボランティアを特色とし、入所者と会員と一緒に懐かしい歌を歌い、月に一度の訪問を基本に、これまで延べ約160カ所の施設を訪問した。

訪問する際には、会員の手づくり歌集を持参しプレゼントするが、それは1万冊を超えた。また、この地域社会に貢献する活動に対し、日本善行会、ソロプチミスト日本財団、日本生命財団、東北労働金庫青森県本部などから顕彰を受けた。

⑤ 新しい大学を開学する。

理事長から、学園が運営する新しい大学を開学したいので、その開学準備室長を務めるよう依頼があった（平成18年）。そして、平成21年4月、弘前医療福祉大学（保健学部、入学定員120名）を開学した。

⑥ 我が国の短期大学で、初の学科を開設する。

短期大学の入学生数に陰りが見え始めた頃、どうするかの議論の中で、これからの時代、「救急救命士」を民間の高等教育機関で養成し、社会に送り出してはどうか、と提案し、理事会で承認された。これを受けて平成23年から、この新学科開設準備室長を務め、平成26年に我が国の短期大学で初めての「救急救命学科」を開設した。

◆ 経験から学んだこと

〈経験した人間にしか、分からないことがある〉—そのことが—

① 日本ショパン協会北海道支部の創設から、事務局員としてかかわり、世界と日本の一流アーティストから学んだこと。

ヤン・エキエル、スメンジャンカ、モレイラ・リマ、野村光一、田村宏らの、コンサートやレクチュアをマネジメントする中で学んだこと。

② 青年期から壮年期にかけて、身近な人々から学んだこと（手本になった優れたこと）。

- ・中学生の時、中学校の音楽教師が尊敬する人は「シュヴァイツァー」と答えたことと、元先輩の先生（校長）が叙勲を受けた時のお祝いの手紙の分厚さに驚嘆した。
- ・高校生の時、音楽の手ほどきをしてくれた先生（当時、北海道大学生）が、北海道に関係した音楽家の名前を次々と挙げて、いろいろ話をしてくれたこと。例えば、伊福部昭、広瀬量平、早坂文雄、吉田秀和、遠藤宏ら。
- ・大学生の時、毎日必ずピアノを弾く老教師。会議でどんなに遅くなっても、宴会で飲んで帰宅した夜中でも... その意志の強固なことに敬意を抱いた。
- ・会社務めの時、上司（部長）は私の提案に、ほとんどすべてゴーサインを出してくれた（失敗

もいくつかあったが)。そのことが、部下を持つ今日、とても教訓になっている。

- ・私を大学の教員に導いてくれた恩師（理学博士）から、大学の教員は論文がないと駄目なのだ、と言われ、論文を書く努力をした。

③ 論文のテーマは、現場に沢山ころがっている。

私に取り上げた論文のテーマは、次のようなものである。

- ・合唱におけるハミング・男声合唱におけるファルセット・合唱団の演奏会のプログラムビルディング・児童の発声における地声をめぐって・「おはようの歌」と「お帰りの歌」をめぐって・女子大生の音楽経験の考察・フレデリック・ショパン覚書他

質疑応答

【相澤 保正 先生 プロフィール】

弘前医療福祉大学短期大学部学長

1938年大阪生まれ、北海道育ち。1964年北海道教育大学札幌校・特設音楽課程卒業。同年創立された北海道二期会に参画し、種々のコンサート活動や合唱指揮を行う。

1978年から青森県弘前市に移り、東北女子大学助教授、東北女子短期大学教授、弘前医療福祉大学教授、副学長等を経て現職。

また、全国大学音楽教育学会東北地区学会会長（2003年～2007年）、同学会理事長（2006年～2008年）を務め、現在同学会顧問。

「音楽ボランティア協会・赤とんぼ（事務局、弘前市）」会長。

編著「歌でコミュニケーション福祉音楽80曲」（共同音楽出版）

共著「あたらしい音楽表現」（音楽之友社）、「やさしいピアノ即興演奏」（ドレミ楽譜）、「手遊び指遊び」（ドレミ楽譜）、「表現II音楽的表現」（チャイルド本社）他。

1. 支援室における音楽活動から見えてきたもの

鷺見 三千代（園田学園女子大学短期大学部）

今回の研究において、「子育て支援ステーションぴよぴよ」で未就園児（以降3歳未満児）と保護者を対象に1年間過ごしてきて、いろいろな遊び・音楽活動を通して3歳未満児の好むものが見えてきました。絵本にしても、歌・手あそびにしても「これは、乳児向きです。」と言われていたものが、実は子どもが関心を示さず期待はずれに終わったり、「これはどうかしら？」と思いながら行ったものが意外にも子どもに受け入れられることがあります。

そこで、3歳未満児が好むと思うもので、その日不機嫌であった子どもが、その音楽活動をはじめると機嫌がよくなり、たとえ誘導者が不慣れな学生であっても親子が上機嫌になれる音楽活動があることが分かり、その理由を探ってみることにしました。言葉を発しない子どもでも心地よい時は、表情や身体が楽しい・嬉しい・心地よいという感情（反応）を自然に表現します。子どもが楽しそうにすると保護者も共感してか笑顔になり満足感を覚えるようです。同じ活動を別の日に、違う誘導者が行ってみましたが同じ結果になりました。

そこで、3歳未満児が好む音楽活動に共通することについて考えてみました。

研究演奏発表要旨

1. ピアノ独奏 シューベルト作曲 「即興曲」作品90 より 第3番

久野 以早夫（東京福祉大学名古屋キャンパス）

この曲集はシューベルトが晩年に作曲した彼の代表作である。非常に親しみやすい曲集でありながら、新鮮さを保ち、通俗的にならない作品で、ピアノ曲の中でも名曲である。

シューベルトは、即興曲集を2セット作曲していて、作品142の4も名曲であるが、こちらの方は4楽章のような感じで、純粋にピアノ小品集的なのは作品90の4の方である。いずれにせよ2曲集ともシューベルトの「歌」の魅力が非常によく出ている曲集である。

第3番変ト長調 アンダンテ 3部形式は、「シューベルト版無言歌」と言っても良いような歌に満ち、流れるように続く分散和音の上で、シンプルでありながら、深い情感と清楚さを兼ね備えた優雅なメロディが歌われる。「夕べの祈り」の気分を漂わせせる。中間部は変ホ長調となり、低音部の音の動きが活発になり、対旋律のような効果を出している。そのあと主部が戻って静かなコーダへ続き曲は終わる。

今回の研究演奏の課題は、3つの声部について、その特徴をどうしたら上手く表現できるかを模索してみる。

2. ピアノ独奏 ラフマニノフ作曲 「プレリュード」ト短調 作品23 より 第5番

的場 里美（夙川学院短期大学）

ロシアの作曲家ラフマニノフのプレリュードの中でも良く知られたこの曲は、行進曲風に始まり、中間部はレガートで情緒溢れる美しいメロディーを歌い、再現部ではまた行進曲のリズムが現れる。

またト短調の調性はシューベルトの魔王、アルビノーニのアダージョ、ショパンのバラード第1番にも使われており、高揚感やロマン的な感傷、真剣な思い等を効果的に表現する調である。

日頃、学生の指導においても、読譜の前にまず調性の持つ意味や雰囲気を感じ、レガートで歌い、リズムをとらえた上で、身体で覚えてから音楽を表現する意識を大切にしたいと思い、本曲を研究演奏発表曲として選択した。

3. ピアノ連弾 ゲッツ作曲 「四手のためのピアノ・ソナタ」 作品 17 より 第 1 楽章

プ リ モ：山本 敬子（武庫川女子大学）

セコンド：生地 加代（武庫川女子大学）

ヘルマン・グスタフ・ゲッツ 1840～1876 ドイツ人の作曲家・音楽評論家・ピアニスト・指揮者
商人の家に生まれ、数学で博士号をとることを準備したが、それを中断して音楽の道に進む。ピアノを
ハンス・フォン・ビューローに師事。カール・ライネッケの助力を得て、ヴィンタートゥール市のオル
ガニストに採用され、その地で教育活動を始め、作曲家としても名を揚げるようになる。1850 年代から
持病の結核に悩まされていたが、ついにはその悪化により夭逝した。

ゲッツは、交響曲と単一楽章のヴァイオリン協奏曲、2つのピアノ協奏曲、多くのピアノ曲と、ピア
ノを含んだ室内楽曲を遺した。シェイクスピア原作のオペラ『じゃじゃ馬ならし』のほか、ダンテの原
作によるオペラ『フランチェスカ・ダ・リミニ』の作曲を進めていたが、急死したため、その遺構はス
イスの作曲家エルンスト・フランクの手により完成された。

ゲッツはメンデルスゾーンやシューマンの流れを汲む穏健なロマン主義の作曲家であった。ブラーム
スやビューローと親しく、その指示を受けた。当時は、フランツ・リストやリヒャルト・ワーグナーら
の新ドイツ学派優勢であったが、ブラームス同様にウィーン古典派の伝統に心酔し、伝統的な音楽感の
もとに作曲活動を続けたため、これみよがしの効果をほぼ完全に避け、作曲技法の習熟を創作の特徴と
した。彼の作品は抒情性と明晰さが際立っている。

グスタフ・マーラーが彼の作品の数々を指揮したとはいえ、永年にわたってゲッツの名は忘れられて
きた。その重要性が見直されるようになったのは、1990 年代になってからのことである。ゲッツは決し
て新音楽の急先鋒ではなく、むしろ作曲技法を完全操作できる作曲家であった。その作品は高水準を保
っており、ゲッツを過小評価することが正しくないことを裏付けている。

4. ピアノ連弾 ドビュッシー作曲：『小組曲』 より 1. 「小舟にて」、2. 「行列」

プ リ モ：白倉 朋子（大阪芸術大学）

セコンド：深田 直子（大阪総合保育大学）

幼少期からピアノを弾いてきた学生でも、連弾を数多く経験していることはあまりない。学生同士で
ペアを組み、連弾を経験する機会を与えることで、より表現豊かな演奏に繋がるだろう。

今回演奏するドビュッシーの「小組曲」は、ドビュッシーの初期の作品であり、調整感がまだはつき
りして取り組みやすい。

本日は全 4 曲のうちの前半 2 曲を演奏する。

1. 小舟にて

静かな波の上に小舟が漂っている情景を、アルペジオで美しく表現している。

2. 行列

躍動感あるリズムが、カーニバルを思わせるような明るく楽しい雰囲気である。

A series of 20 horizontal dashed lines spanning the width of the page, providing a template for handwriting practice.

Lined writing area consisting of 20 horizontal dashed lines.